

平成 30 年度 二宮町ごみ減量化推進協議会 会議記録

日 時：平成 31 年 3 月 27 日(水)

午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

場 所：二宮町役場 第 1 会議室

出席者：高橋委員／内海委員／露木委員／西川委員／岡部委員／男成委員

事務局：和田生活環境課長／二宮生活環境班長／岡部主任主事

1. 開 会

2. あいさつ

会 長：ごみの減量化・資源化を進めるということは、焼却量の削減につながることから、CO2 排出量の削減もでき、地球温暖化防止の効果も期待できるので、我々協議会も努力して、町に協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3. 議題

(1) 平成 30 年度 (2018 年度) の取組実施状況について

『平成 30 年度 (2018 年度) の取組実施状況』について事務局より説明

【質問・意見等】

委 員：店舗では、どのような資源化に取り組まれていますか。

事務局：魚のあら、天かす、廃食油などを家畜の飼料、畑の肥料、バイオマスエネルギーにリサイクルしている店舗がありました。

別の店舗ではフードバンクを活用して、廃棄になりそうな食品を取りに来てもらっているといった話もありました。

委 員：キエーロの実証実験を行っているとのことですが、見学はできますか。

事務局：見学は誰でも見るできるようになっています。毎日、温度を測ったり、どれだけ生ごみが減ったかを確認しております。

委 員：刻んだ状態と刻まない状態で入れた場合とでは何か違いはありますか。

事務局：刻んで細かくした方が処理能力は上がります。

事務局：来年度の予定になりますが、キエーロの使い方を紹介する動画を作成し、町ホームページ上で掲載することを検討しております。

動画の内容についてはこれから検討していきますが、来年度中には公開していきたいと考えております。

委 員：年間 9 t 以上出しているコンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの多量排出事業者によるごみの数量も町のごみ処理量に含まれていますか。

事務局：事業系一般廃棄物という形で、処理量に含まれております。

(2) 平成 31 年度 (2019 年度) の取組実施状況について

『平成 31 年度 (2019 年度) の取組実施状況』について事務局より説明

【質問・意見等】

委員：ある自治体では生ごみ 3 切り運動をやっていて、一つ目は使い切り、食材を必要な分だけ購入する、2 つ目は食べ切り、残さず食べる、3 つ目は水切り、水分を切って捨てるというもので、3 切り運動推進中というキャッチフレーズでやっていて、細かく説明するよりもわかりやすく頭に入ってくると思うので、広報紙などで周知しても良いかと思います。

会長：キャッチフレーズはわかりやすく良いと思います。水分ひとしぼりなどはわかりやすいキャッチフレーズかとは思いますが、もう少しアイデアを出してキャッチフレーズを作るというのは必要かもしれません。

委員：関心のある方は自主的に実践すると思いますが、関心のない方にどうやって伝えていくかが問題だと思います。例えば、啓発看板をごみ置場などの目に留まる機会が多いところに設置すると効果があるのかなと思います。家の前に犬のフンをされてしまって看板を立てたら、とたんに無くなりました。

事務局：工夫してできることは実施していこうと思います。

委員：他の自治体では引き取ったものを再生して引き渡しているところがありますが、二宮町でもできると町の収入にもなって良いと思いますが、難しいでしょうか。

事務局：引き取ったものをそのまま売るといった訳にはいかないもので修理、保管するスペースが必要になります。

事務局：ベビーカーやチャイルドシートなど、不要になったものを、交換できないかといったような話がありましたが、スペース的な問題ですとか、個人情報取り扱いの問題などによって、なかなか話が進まなかった経緯があります。

委員：リサイクルは民間のインターネットサイトが活用されているので、わざわざ町が取り組む必要はないと思います。

事務局：町が単独でサイトを立ち上げたとしても、ニーズと比較したら費用対効果はあまり得られないかもしれませんね。費用対効果に関連して言えば、資料の 2019 年度に取り組み予定の減量アイデア策「No. 1 草葉の自家処理の推進」はどうでしょうか。可燃ごみが増えた一番の要因が、剪定枝で集めていた草葉がごみ処理広域化に伴って、可燃ごみに移ったことによるものですので、草葉を庭埋めするなどの自己処理の視点に切り替えても効果があって面白いと考えています。

委員：埋めたりするのはお年寄りにとっては大変で、かなり労力があることだと思います。枯らしてから出すことも可能と思いますが。

委員：町の施設ですと、例えば吾妻山やラディアン花の丘公園の枯れ草や剪定枝はどのように処分されていますか。

事務局：自己敷地内での処理をしています。枯らして、そのまま土に返しているというの

がほとんどです。学校も敷地内で枯らしているところもあります。

委員：町民の方が利用できる、枯らし場所があれば良いと思いますが。

事務局：減量アイデア策「No.2 地域美化清掃の草葉の自家処理（枯らし）」についてですが、地域美化清掃で草刈りした草を近くの空き地などで枯らしてもらっている地区もあります。

会長：その他のアイデアの「No.3 イベント時に食器貸出し業者（NPO）の紹介」や「No.30 ごみガイドブックにごみ減量のアイデアや取り組みを掲載」で、イベント時のリユース食器貸出し業者の紹介については、各地域でもいろいろとお祭りがあると思いますので、お金は掛かるとは思いますが、デポジットで返してもらえるわけなので、各イベント時に積極的に紹介すると良いと思います。

ごみガイドブックにごみ減量のアイデアや取り組みを紹介することも良いと思いますし、その他の減量のアイデア策のところも取り上げてもらえればと思います。

委員：最近容器包装のごみが多いですね。

事務局：今、海洋プラスチック問題が話題になっていますので、例えば、紙製のストローを利用するなど、環境に配慮した紹介はできると思います。

イベント時の食器貸出し業者の紹介については、来月に各地区の地域環境推進員さんが集まる連絡会議時に、お祭り時などの利用について紹介しようと思っています。

委員：使い捨ての物を使わないということも広報活動で啓発してもらえたら良いと思います。例えば、紙おむつの使用が当たり前ですが、布おむつは子どもにも良いですし、マイバック、マイボトルやマイ箸の持参についても良いと思います。

委員：容器包装プラスチックは燃料にはならないのでしょうか。

事務局：ほとんどがサーマルリサイクルといって、熱回収して発電されるというのが主流になっています。

委員：食品用のラップは燃やすとダイオキシンが出ますので、ポリラップを使ってほしいということになります。サランと言うのは塩素が入っているということで、塩素が入っているとダイオキシンが出ます。農業用のビニールも塩素が入っています。

事務局：ごみの減量化策について、啓発していく予定ですが、関心のある方は見ていただけたと思いますが、関心の低い方にどうやって広めていくかということがこれからの課題だと思いますので、そういった視点で、今後も、皆様からご意見をいただきながら推進していきたいと思っています。

（3）その他について

『その他』について事務局より説明

【質問・意見等】

事務局：皆様にはより町民目線にたったご意見をいただきたいと考えており、次年度から附属機関としての協議会ではなく、当会を研究会という位置づけで進めてまいりたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

4. 閉 会